

Message from a Globalist 9



神野 重行氏
名鉄百貨店代表取締役社長

「世界の共通語」

新 入生の皆さん、保護者の皆さん、入学おめでとうございます。満開の桜の下、春の息吹を感じるこのよき日にご入学される皆さんは、誠に幸せなことだと感じています。

50年前、私が中学に入学した頃というのは、名古屋でテレビ放送が始まってまだ5年、東京タワーができる頃です。その頃、テレビのある家はほとんどありませんでしたが、我が家にはテレビが来ました。放送が始まる時間になると、近所の人々が大人から子どもまで我が家に集って来ていました。小さな白黒のテレビをみんなで見て、後ろの人からは豆粒ほどこしか見えなかったでしょう。私が高校を卒業する少し前に東京オリンピックがあり、カラーテレビ放送が始まったのです。電話も、今のような携帯電話やコードレスの電話ではなく、黒く重たい固定電話で、それも多くの人にあっていただけでなく、近所に電話を借りに行く、そんな時代でした。

ですから、私が皆さんくらの頃、入ってくる情報の量は、近所で聞いた話、ラジオのニュース、新聞の見出し、それほど多くはありませんでした。今の皆さんは、たいへん多くの量の情報の中で生活しています。皆さんは情報とっていないかもしれませんが、どんどん入ってくる情報をどうこなしていくのか、大変なことだと思っています。

「未来の国際人」を育てていこうというスローガンで、名古屋国際中学校・高等学校は運営されています。世界中の情報が、世界同時にたくさん入ってくる、そんな中で自分から出ていくのは何だろう、どんなことが伝えられるのだろうか、自分の思っていることや考えていることをどう伝えていくのか、と考えた時、結局最後は言葉なのだろうと思います。

まず母国語である日本語の理解がしっかりできていないと、日本人の心を伝えることができません。幸いことに日本語だけで国内では通じます。日本語をまず勉強してください。そして、英語はもちろん、これからアメリカとともに世界のリーダーシップをとるであろう、中国語を情報伝達手段として学んでほしいと思います。

皆さんには、若いうちから世界の共通語を勉強して、その上に自分なりの勉強を積み上げ、世界に羽ばたいてほしいと願っています。■

Feature

4月に策定された学校基本計画にも明記されているGLPは名古屋国際独自のユニークな取り組みです。国際社会で活躍できる人間を育成するための新講座について関係者にインタビューを行いました。

進路指導の向上へ向けて GLP(Global Leadership Program)スタート!

TIMES: GLPは何名の国際生が参加しているのですか？

Mike先生: 任意の参加で、現在26人が参加しています。この人数には普通科(中高一貫コース)や国際教養科の生徒が含まれています。

TIMES: 授業ではどのような学習をしているのですか？

Mike先生: TOEFLテストの形式に慣れ親しんでもらうことから始まります。そのため、試験で出題されるのと同様の実践的な問題集を使用して学習しています。GLPでは「聞く、読む、話す、書く」の4つの種類の授業を3人の先生でローテーションしながら、実際に使える英語の語彙を拡げることによって焦点を充てています。

TIMES: 受講している国際生の子供はどのような様子ですか？

Mike先生: そうですね、とても真剣に取り組んでいるように思えます。彼らは毎週、通常の授業以外に6時間限りの講座に出席していることになります。これらは挑戦的な講座ですが、TOEFLのように広範囲にわたって難問が出題されるテストで成功するためには、このようなハードな課題が必要であることを生徒たちは理解しているようです。

TIMES: GLPに参加しようと思ったきっかけは？

早川君: 僕は留学の準備としても考えていますが、将来、海外での仕事に就かなくて、そのための準備としてGLPの受講を決めました。

E.K.さん: 私は国際高校の合格通知にGLPの案内が入っていたので、すでにその頃から受講を決めていましたね。

TIMES: E.K.さんは、やはり海外の大学を目指しているのですか？

E.K.さん: 実は日本の大学進学を希望しているのですが、学部在学中に海外留学して単位を取ることができるので、そのための準備です。

TIMES: GLPのオリエンテーションから相当のヒアリングの能力が必要と聞きました。

早川君: オーストラリアに家族と滞在していた経験があったので、基礎的なヒアリングについてはそれほどの抵抗はありませんでした。でも、授業では知らない単語がけっこう出てきますね。まだ始まって1ヶ月程度ですが、学習量が多くてスキルアップを感じています。

E.K.さん: 私は、問題集の付属CDを自宅で聞いてみましたが、最初は理解できませんでした(笑)。でも、授業の中で問題集の使い方をネイティブの先生が教えてくれるので、徐々に理解ができています。

TIMES: Mike先生自身が「高校生の時には、GLPのようなクラスはあったのですか？」

Mike先生: SAT受験対策のクラスがありましたね。すべての生徒が受講するものではありませんでしたが、GLPのように授業後に自主的に開講されていました。これらの種類のテストに慣れることで、より良い結果が出せると思います。練習と解答への分析は非常に重要だと思います。

TIMES: 結果が楽しみです。ありがとうございます。



▲GLP担当のMike先生



▲George校長



▲普通科(中高一貫コース)の早川留以君



[国際生OB OGから現役国際生へ]

● Message to Students ●

我が後輩たちへ

2009年度(普通科 中高一貫コース)卒業生
慶応義塾大学 総合政策学部

あずか

クレシ 預君

実 私は、慶応義塾大学のAO入試を2度受験しています。前期AO入試は2次試験で落とされました。圧迫面接といわれる意地悪な雰囲気の中で、自分らしさを少しも表現することができず、面接の最中から不合格の予感がありました。それでも実際に不合格を知らされたときのショックは大きく、難関大学を目指したことへの後悔と、どこにも合格できないのではないかという不安で、志望大学のランクを下げたりもしました。

いったん諦めた慶應義塾大学でしたが、両親の励ましにより後期AO入試に再挑戦することにしました。前回提出したものを上回る内容の書類を作りあげるため、先生や友達に意見をもらったりする中、一番力になってくれたのが私を一番よく理解する母でした。私が作った書類を添削し、様々なアイデアを出してくれました。2ヶ月後再び1次合格の通知を受け、私は大急ぎで母と2次試験の準備に取りかかりました。2次の面接まで2週間もなかったからです。ニュース記事や統計、写真を使用した視覚資料を用意して、プレゼンテーションの練習を繰り返しました。周到な用意と十分な練習が自信につながり、今度は臆することなく面接に臨みました。それどころか、試験官である教授とプレゼンテーションの内容について議論をしたり、私の将来の目標に役立つ講義や学問の分野についてアドバイスまでいただいたりして、面接を楽しむ余裕さえありました。興奮したまま面接の会場を出る際、私は既に合格を確信していたほどです。

なにはともあれ、名古屋国際での充実した3年間を一番楽しかった時期だと信じていた私は、大学入学後

わずか数ヶ月でさらに楽しい学生生活があることを知っていました。

慶応義塾大学総合政策学部では様々な分野の講義が開かれており、興味のある講義を片っ端から受けることができます。私は経営から国際紛争、心理学、アラビア語、プレゼンテーション技法など、幅広い分野から講義を選択しました。講義内容は興味深く、有名な方が講師を務めてくださる機会もあり、学問の面白さを実感しているところです。勉強以外にも大学では楽しいことがたくさんあります。実は今、私の所属するロックサークルのライブが終わったところで、大学のPCからこの記事を書いているところです。他にもビジネスサークルとテニスサークルに参加しており、楽しく忙しい毎日を送っています。ランクを落として入れる大学に妥協せず、志望の大学を諦めなかったことが、現在の充実した時間につながっているのだと確信しています。大学では「誰よりも学び、誰よりも遊び、誰よりも働く」をモットーに過ごしています。

名古屋国際の後輩たちには、第一志望の大学に挑戦する勇気を持ち続けてほしいです。努力して進んでいった先にはきっと楽しい大学生活が待っているはず。そして、高校生活の中でできるだけ多くの経験をしてみてください。面倒臭がってはいけません。絶対無駄にはならないから。私がAO入試で合格できた理由のひとつには、検定やTOEICの結果と、生徒会長や学級委員を務めた経歴と、思う存分高校生活を楽しんだ経験が上げられるでしょう。諦めそうになってしまった時は自分を一番良く知っている人に助けを求めてください。友達でも、家族でもいいから。妥協せず常に上を目指してください。私の好きな歌手がこんな歌詞を書いています「高ければ高い壁のほう、登った時気持ちいいもん」。

いつか慶応義塾大学に国際生の後輩ができることを期待しています。■



▲テニスサークルの友人と



▲大学キャンパス内で



Great Dialogue from the Movies

あいつの一番すごいところは、
自分は存在しないと思込ませたところだ
“The greatest trick the Devil ever pulled was convincing the world he didn't exist.”

ブライアン・シンガーのフィルムノヴァール、「ユージュアル・サスペクツ」に登場するバーバル・キント(ケビン・スペイシー)は、ある船上で起こった殺し合いと爆発で生き残った詐欺師です。税関検査官(チャズ・パルミンテリ)の尋問を受けた彼は、他の4人の犯罪者と共にカイザー・ソゼと呼ばれる謎の黒幕の下で動くようになった複雑に入り組んだ経緯を、回想とナレーションを使って語っていきます。バーバル・キントは、ソゼがどうやって自らの存在を表に出さずにいるかについて語る際に、上の有名なセリフを口にします。

脚本家と監督は、実在の人物、ジョン・リスト(自分の家族全員を殺害し、20年間にわたって姿を隠していた会計士)をもとに、ソゼのキャラクターを作りました。

ユージュアル・サスペクツは、その衝撃的な結末でカルト映画の傑作と呼ばれ、ケビン・スペイシーの助演男優賞とともに、脚本でもアカデミー賞を受賞しています。■

In Bryan Singer's noir film The Usual Suspects (1995), Verbal Kent (Kevin Spacey) is a con man who has survived a massacre and fire aboard a ship. He is interrogated by a customs officer (Chazz Palminteri) and, in a combination of flashback and narration, he tells a densely complex tale of how he came to work with four other criminals under the mysterious criminal boss known as Kayser Soze. Verbal Kent utters this famous line to describe Soze's method of maintaining his invisibility. The writer and director based Soze's character on the real life John List, an accountant who murdered his whole family and then disappeared for two decades. The Usual Suspects has become a cult classic with arguably the most astounding surprise ending of any film. The screenplay won an Academy Award, as did Kevin Spacey (Best Supporting Actor). ■

THE FRONTIER TIMES

Report ① 硬式テニス部 全国大会出場!!



千 葉南奈さん(国際中3年生)が東海中学生大会のシングルスで準優勝、千葉南奈さん・水野都さん(国際中3年生)がダブルスで優勝しました。今年の8月に行われる全国中学生大会に東海地区代表として挑みます。また、平松詩菜さん(国際中2年生)も順位戦で9位になり、全国中学生大会に出場が決まりました。3名の全国大会出場者を出すことができますことを大変嬉しく思います。■

② 「見せる・見られる・高めあう」の公開授業に学ぶ



▲公開授業を行う藤田美知明先生

国 際教養科が力を入れる取り組みのひとつに、3年目を迎える年2回の公開授業があります。今年の第1回目は、教育実習の期間を利用して、授業の質を高めるために教師が授業を見学し合う公開授業を始めました。他教科の授業も自由に見学することにより、新たな視点で授業を見つめ直す機会にして、生徒の学力や学習意欲、授業に対する姿勢を把握することに役立っています。公開授業期間中は、教師たちは自分の空き時間の中で、自由に他の教科や学年の授業を見学して、教師自身の授業を振り返る良い機会として捉えています。「生徒にはこういう発問が効果的だ」「進捗はこのくらいが適切か」など、互いの授業のスキルを交換して、指導のノウハウを共有しながら、授業改善を進めています。■